



よく寄せられる質問

- よく寄せられる質問 (1 ページ)

よく寄せられる質問

の**Unified Communications Manager**リリースからアップグレードするか、また**IM and Presence Service**は新しいリリースとは異なる要件を持つ仮想環境の要件を満たしています。どうすればよいのですか。

次の情報を使用して、新しいリリースの要件を確認します。新しいリリースの要件を確認した後、手順に**仮想マシン設定タスク**についてはを参照してください。

表 1: 仮想マシンの要件

項目	説明
OVA テンプレート	<p>OVA ファイルには、仮想マシン設定用の一連の定義済みテンプレートが用意されています。サポートされているキャパシティレベル、必要な OS/VM/SAN の配置などの項目について説明します。Unified Communications ManagerおよびIM and Presence Serviceアプリケーション用に提供された OVA ファイルから VM 設定を使用する必要があります。</p> <p>OVA ファイルから使用する正しい VM 設定は、展開のサイズに基づいています。OVA ファイルの詳細については、の「ユニファイドコミュニケーション仮想化のサイジング https://www.cisco.com/c/dam/en/us/td/docs/voice_ip_comm/uc_system/virtualization/collaboration-virtualization-sizing.htmlに関するガイドライン」のトピックを検索してください。</p>

項目	説明
VMware vSphere ESXi	<p>リリースの互換性とサポート要件を満たす vSphere ESXi ハイパーバイザのバージョンをインストールする必要があります。</p> <p>Cisco Prime Collaboration Deployment (PCD) を使用してアップグレードまたは移行を実行する場合は、正しいライセンスタイプで vSphere ESXi がインストールされていることも確認する必要があります。PCD は、vSphere ESXi のすべてのライセンスタイプと互換性がありません。これらのライセンスの一部では、必要な VMware Api が有効になっていないためです。</p>
VMware vCenter	<p>VMware vCenter は、Business Edition 6000/7000 Unified Communications Manager アプライアンス IM and Presence Service、または UCS テスト済みリファレンス構成ハードウェアで UC 上に展開する場合はオプションです。</p> <p>VMware vCenter は、UC に UCS 仕様ベースおよびサードパーティ製のサーバ仕様ベースのハードウェアに導入する場合に必須です。</p>
VM 設定の仮想ハードウェア仕様	<p>または Unified Communications Manager IM and Presence Service の新しいリリースにアップグレードするために、VM の仮想ハードウェア仕様を変更する必要があるかどうかを確認します。たとえば、vCPU、vRAM、vNIC アダプタタイプ、および vDisk サイズの要件、およびその他の仕様を確認します。</p> <p>VM に対するすべての変更は、OVA 設定と一致している必要があります。サポートされていない OVA 設定による VM の変更は許可されません。VM 要件の詳細については、リリースに対応する OVA テンプレートの Readme ファイルを参照してください。</p> <p>(注) 80GB OVA を使用して、Unified Communications Manager が、11.5 以降から 12.5 以降のバージョンにアップグレードされた場合、最大 98% の高いアクティブパーティションが想定されます。これは、HDD 90GB/110GB でシステムを再構築することで修正できます。デフォルトの 110GB OVA テンプレートを使用し、ノードを再構築します。または、現在の 80GB OVA では、クリーンインストールの前に、[VM]>[設定の編集 (Edit Settings)] に移動し、HDD サイズを 80GB から 90GB/110GB に増やします。その他のスペックはそのままです。すでにインストールされているシステムに HDD ディスクを追加すると、共通パーティションに追加の HDD スペースが加わるだけです。</p>

に.. [www.cisco.com go virtualized-collaboration](http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration) 移動して、仮想化環境の要件に関する詳細情報を確認できます。ここでは、次のことが可能です。

- Unified Communications ManagerおよびIM and Presence Serviceアプリケーションのリンクに従って、リリースの要件を確認し、ova ファイルをダウンロードします。
- 「Unified Communications VMware 要件」トピックを検索して、機能サポートとベストプラクティスに関する情報を検索します。

アップグレードの一環として別の VM サイズに移行したいと思います。VM 設定の仕様を編集できますか。

VM 設定の仕様を編集する前に、OVA ReadMe ファイルを確認して、アップグレードするリリースの特定の要件を確認してください。OVA ファイルには、仮想マシン設定用の一連の定義済みテンプレートが用意されています。サポートされているキャパシティレベル、必要な OS/VM/SAN の配置などの項目について説明します。OVA ファイルから使用する正しい VM 設定は、展開のサイズに基づいています。

OVA ファイルの詳細については、.. [www.cisco.com go virtualized-collaboration](http://www.cisco.com/go/virtualized-collaboration) の「Unified Communications 仮想化のサイジングに関するガイドライン」のトピックを検索してください。

OVA ファイルを取得するには [OVA テンプレートのダウンロードとインストール](#)、を参照してください。

管理 XML (AXL) インターフェイスを使用して情報にアクセスし、変更 **Unified Communications Manager** するアプリケーションがあります。アプリケーションは、 **Unified Communications Manager** アップグレード後も動作し続けますか。

AXL アプリケーションのアップグレードの詳細について <https://developer.cisco.com/site/axl/learn/how-to/upgrade-to-a-new-axl-schema.gsp> は、を参照してください。使用しているリリースでサポートされている AXL 操作のリスト <https://developer.cisco.com/site/axl/documents/operations-by-release/> を表示するには、を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。